

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑 グループホーム はるか(1階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6-4		
自己評価作成日	令和 5 年 8月21日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 1 月 9 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600094-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様1人1人のこれまでの暮らしに大切にしながら、ご家族様含め希望や要望に沿った生活の実現に向け、その人にスポットをあてた活動なども提供できるよう心掛けています。毎日の生活の中での役割を大切に、季節にあったホール内の装飾も利用者様と楽しみながら一緒に作るなど、利用者様が今出来ていることを続けられるようお手伝いさせて頂いております。毎日の日課を元に、就寝時間などその方にあった生活サイクルの中で過ごして頂けるよう対応しています。食事もご家族様の協力を得ながら、その方の好きなものを提供するなど、施設での提供する献立以外にも対応しています。コロナの緩和に伴い、ご家族の面会を再開しています。時間制限は15分となっておりますが、ご家族様や利用者様も大変喜ばれています。毎月利用者様のご様子を個々に手紙としてご家族に届ける事も継続しています、ご家族様とのつながりが切れることのないよう工夫しながら、定期的にご家族様とコミュニケーションを図るよう対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、都心部から少し離れた静かな住宅街に立地し、周辺には交通量が多い道路に面している。道路沿いには様々な店がならび生活の利便性に恵まれている。敷地内には同法人の小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、利用者の介護の状況に合わせて、当該グループホームに入所することも多く、連携や馴染みの関係性が図られている。母体法人は特別養護老人ホームなど様々な福祉施設を運営しており、総合的なケアに基づき関連施設への移行も可能である。コロナ禍の終息の兆しが見え、買い物や外食などにも出かける機会が増えてきている。また地域密着の観点から水害時の防災訓練と炊き出し訓練を合同で開催する予定であり交流会を含めて、地域とのつながりも元の状況に戻りつつある。施設長や管理者が人材育成について最重要事項と捉えて力を入れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体のケア理念を玄関に掲示し、利用者様やご家族様だけでなく、職員にも毎日目を止めるよう心掛けています。また職員会議などを通じケア理念の理解、実践に向けての取り組みを行っています。	法人のケア理念を玄関に掲示し利用者や家族が確認できる。定例の合同会議の中でケア理念を話し合い共有できるように工夫している。課題が発生した時など理念に立ち返り実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板を回したり、町内会行事への参加を心掛けています。毎日の出勤退勤時等、率先して挨拶を行っています。	コロナ禍で町内会活動は休止していたが秋の防災訓練と炊き出し訓練を合同で開催する計画である。散歩などで地域の方と関わる場面では挨拶などを通して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の機会を通じて情報発信を行い、グループホームでの生活の様子等伝えていきます。認知症に関する相談なども、積極的に対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナが緩和され、集合会議が開催できています。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ボランティア団体代表、家族が参加し、書面から集合会議開催をしている。利用者の状況やケアの取り組み、事故報告の対応策などを報告し意見等を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的な情報交換、情報提供等、電話を中心にを行っています。	介護保険の更新や区分変更時には介護高齢福祉課、生活保護の方の病気や通院に関しては生活支援課、コロナ感染については保健所等と連携を密にし、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設におけるマニュアルを配布し、毎月の会議の中で、身体拘束についての確認、勉強を行っています。また法人内での身体拘束に関する研修会に参加予定とし、学んできたことを、職員にフィードバックし、理解を深めていこうと思っています。	外部の研修に参加したスタッフが全職員と身体拘束について学ぶ機会を設けている。「待ってください」との利用者への声かけも不適切な対応になっていないか考えを共有している。センサーマットや人感センサーの利用も会議の中で必要性を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても身体拘束と合わせて、会議や勉強会で話す機会を持っています。また個々の職員とも日常的に話す機会を持ちながら、その理解に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の利用者様の状況を勘案しながら、成年後見制度を学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報等について、ご家族様含め時間を取って説明し、理解と同意を頂いてからの契約行為を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で行事などの報告をし、意見を頂いています。また面会時や通院同行時など、直接ご家族様と話す機会を作り、随時ご意見、ご要望を確認しています。	運営推進会議等で外部からの意見や要望を聞く機会がある。家族からの苦情や要望については職員間で共有し、検討して改善に繋げている。ホームページを更新したり毎月の便りで家族との情報共有に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ごとの会議や法人役職者の会議など通じ、それぞれの会議で得た情報を伝え、状況の把握を行っています。その上で、運営に関する提案の機会を作っています。	法人からの情報は定期的な会議で共有し、職員からの意見は会議の他に個別面談を通して把握している。目標シートを作成し人材育成に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には先輩のお世話係をつけ、1年を通じて育成を図り、双方が学べる機会、環境を作っています。個々の職員の心の動きなど把握するために、日常的な会話や面談を行い、継続的なサポートを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会を作り、各委員会への研修参加や勉強会を開催し、学びの機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームや地域の研修会への参加を通じ、ネットワーク作りや知識向上の機会を作っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人様、ご家族様と面接・聞き取り調査、他施設や病院からの情報を提供して頂き、事前情報の把握に努め、利用開始時には職員が間に入り馴染みやすい雰囲気を作るよう努めたり、周りを気にされないよう二人で話す時間を作り要望を聞いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来訪された時には、ご本人の様子を伝え、ご家族が不安に思っていることや要望などお話を聞いています。また毎月ご家族あてに、ご様子や写真をのせた手紙をご家族に送っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	集めた情報を元にチーム内で話し合いを行い、必要な支援や適切なケア方法を検討し、職員間で情報共有し、その方が望む生活の実現に向け、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活している事を感じ取って頂ける様に、掃除や茶碗洗いなどを行い、その都度職員から感謝の言葉を伝えていきます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ緩和に伴い、面会はお部屋で15分の制限はありますが実施しています。毎月のお手紙やオンライン面会も継続して「行っています。また、ご家族が来訪された時には利用者様の最近の様子などを伝えていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ緩和に伴い、面会（お部屋で15分）・外出もできています。電話でお話をされる方もいらっしゃいます。	記念日に家族との買い物や食事に出かける機会を設けている。馴染みの美容室に出かけたり、墓参りや彼岸に自宅の仏壇に手を合わせることもある。近所の友人が自転車で遊びに來たりして、馴染みの関係性を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に体操やレクリエーションなどの活動を行い、利用者様同士が関われるように職員が間に入っています。特にレクリエーションでは共同作業行ったりと協力し合えるレクを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の施設から情報提供の依頼があった時には速やかに対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者様とお話する機会を設け、思いや訴えを聞き取っています。また、声掛けしながらご本人の意思を確認し介助を行っています。	一人ひとりから暮らしの要望を聞き、家族の協力のもと叶うように努めている。本人と家族の意向が異なる場合は根気よく情報共有しながら本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報に加え、ご本人との会話の中から情報を引き出したり、必要に応じてご家族から情報を提供して頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態について変わったことがあれば、チームノートや日誌などで申し送りを行い、都度チーム内で情報共有を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム会議にて利用者担当が主になり会議を開催し各職員で話し合う場を設け、その意見に沿って介護計画を作成しています。	状態の変化時、または半年ごとに計画の見直しをしている。担当職員、または全職員と定期的なチーム会議でモニタリングを行い本人、家族の意向を確認して介護計画を作成している。家族に送付し署名を得ている。	本人、家族からの意向を確認し、チームで話し合いすり合わせをしてケアプランを作成し、チーム全体で共有して、専門性のあるケアの統一を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様毎に日々の記録を行っています。また、毎月ケアプランに対してのモニタリングを行い利用者様の状況の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族から要望があった際には、上司と相談しながら実現可能か相談しながら対応させて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ緩和されていますが、参加しする事はしていません。今後、地域のサロンに参加を希望される利用者がいれば、参加していきたいと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診や急変時の通院の際には職員が同行して利用者様の最近の様子について情報提供を行っています。 また、通院後にはご家族に通院結果をお伝えしています。	定期的な訪問診療の他、かかりつけ医や眼科、皮膚科、歯科などの専門病院受診を家族の協力のもと行っている。家族が受診同行する場合は利用者の症状等を伝えた確かな診察ができるよう対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の様子がいつもと違うときや体調不良の訴えがあった時には、都度看護師と相談したり必要に応じてかかりつけの医師に相談し対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院時には職員が同行し、利用者様の様子、状態を伝えています。 入退院時も互いに情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態変化について都度チーム内や上司と情報共有を行っています。 ご家族に対しても利用者様の現在の様子を伝えています。	入居時に重度化や終末期の指針の説明を行っている。病状の状態に応じて主治医や家族と話し合い、事業所で出来ることを説明しながら方針を検討している。入浴介助の困難や病状の進行状況に応じて法人内の特養などへの移行を検討し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを用意し、突発的な事態に對して対応出来るように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間・水害を想定し避難訓練を行っています。	コロナ禍が収まり、秋には町内会と合同で水害を想定した避難訓練を予定している。同時期に炊き出しも地域と協力して行う体制を築いている。備蓄や冬季の対応策も検討中である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者に聞かれたくないと思われる時には、耳元で話したり、場所を変えてお話をさせて頂いています。居室に入る時や何かする時には利用者様に確認してからさせて頂いています。	排泄の際の誘導時や入浴時などには誇りやプライバシーを損ねない言葉がけをするよう職員で共有している。居室に入るときは必ずノックと声かけで確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をするにしてもご本人に確認しながら行っています。また、普段からご本人とお話する時間を作り、悩みややりたい事など、話しやすい雰囲気づくりに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人から要望があった際には、その要望を叶えられるように、チーム職員と連携し時間を設けたり、日課としてやりたいことがあれば他職員とも情報共有を行い、介助が必要な部分があればお手伝いをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪など、必要に応じお手伝いさせて頂いています。洋服を選ぶ際にもご本人と相談しながら決めさせて頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様には食前の食卓の消毒をさせて頂いたり、食後には茶碗洗いを手伝って頂いています。コロナ前には盛り付けなども手伝って頂いていました。また、食前にメニューの説明をしたり、利用者様の好物を気にかけて声掛けを行っています。	管理栄養士が献立をし、季節に応じた食事を提供している。みそ汁やおやつは各ユニットで利用者も手伝いながら調理や片付け等を協力し合って、楽しい食事風景を盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく召し上がって頂ける様に、おかずの味を伝えたり、声掛けをしたり、食器の配置を工夫しています。また、ふりかけや海苔のつくだ煮など、各利用者様の希望を聞きながら提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方はそれぞれ状態に合わせ介助しています。全利用者様を対象に年1回歯科検診を行っています。歯科の介入が必要な方は定期的に歯科往診受けています。歯科のアドバイスを元に介助を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入しそれぞれの方の排泄パターンに合わせ、声掛けやトイレ誘導を行っています。パッドの種類等もチーム内で相談し適したものを使用して頂ける様に取り組んでいます。	入居者の平均年齢が90歳でほとんどがパットやリハビリパンツなどを使用している。排泄パターン表の活用や時間での誘導で、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便リズムを把握したり、水分量や食事量、運動量などの把握に努めています。必要に応じファイバーの提供や医師と相談しながら下剤の調整を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めずに利用者様の都合や気分に合わせてながら入浴にお誘いさせて頂いています。入浴時間やお湯の温度など、それぞれの利用者様の要望を聞きながら対応させて頂いています。	2、3日毎に声かけし、希望により連日入浴の支援も行っている。午前・午後と自由な時間帯や気分に応じて、ゆっくりと入浴してもらっている。浴室では普段聞けないような話で盛り上がることもあり情報収集の場になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床・起床時間は特に決めず、声掛けはしていますがそれぞれの利用者様に合わせています。眠れない時にはお話を聞いたり、ちょっとしたものを食べたり安眠できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の個人ファイルに薬剤情報を挟みいつでも閲覧できるようにしています。毎月の医師往診時に各利用者様の様子、状態の変化についてまとめ、把握するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様によって得意な事、好きな事を提供しています。歌や、細かい作業、おやつ作り、運動など、それぞれの利用者様が楽しみ活躍できるような活動を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で人の集まる場所には外出が出来ていませんが、桜を見に行ったり、近場を散歩したり、ドライブをしたり、夏には外でおやつを食べたりと、室内にとどまらず外の空気に触れる機会を設けています。	少しずつではあるがコロナ前に戻りつつある。この夏は猛暑で熱中症に留意しながら外気浴をしたり涼しい時間帯に庭でスイカを食べたり花火を楽しんだりしている。家族の協力のもと外食や買い物への外出も増えてきている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を管理されている方はおらず、利用者様が何か欲しいものがある時には、ご家族に伝えたり、職員が代わりに購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間制限はありますが、直接面会、オンライン面会を行っています。利用者様が電話をしたいと要望があれば、施設の電話を使用し話されています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やホールの環境整備を行っています。利用者様と季節の飾りを作り飾ったり季節を感じて頂ける様に一緒に取り組んでいます。	ホールの中央に大きな窓があり、食堂やリビングは明るい空間になっている。共有スペースにはクーラーがあり温度や湿度を調整し居心地よく過ごせるように工夫している。居室の入口には個人ごとの表札があり生活感がある。壁には職員との共同作品や習字、塗り絵などが飾られ季節感を漂わせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的にホールのレイアウトを見直し、利用者様がリラックスして過ごして頂ける様な環境づくりに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外のご家族が持って来て下さったものを使用し、それぞれの利用者様の好みに合わせ、写真やポスターなどが飾られています。利用者様が模様替えをしたいと話された時には、職員が要望を聞きながらお手伝いをしています。	入居時には馴染みの椅子やタンスを持参し、自宅での継続性を保っている。それぞれの壁には家族写真や作品を飾っている。歩行機能に合わせて部屋の家具やペットの配置などを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が迷わないように居室前に名前を掲示させて頂いたり、トイレの場所などもわかる様にしています。フロア内を安全に移動できるように明るさや障害物に注意し、動きやすいように動線を確保しています。		